

2026年3月21日（土）オンライン開催
東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット
2025年度 日本語プログラム開発事業 報告会

日本語プログラム（小中学校） 開発の考え方と 活動・ユニット案の内容構成

谷啓子・米本和弘・齋藤ひろみ（東京学芸大学）

本資料の利用について

教育・研修を目的とした利用に限ります。資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトのURL」を明記して利用してください。部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。

報告内容

1 開発の背景

- (1) 子どもの日本語教育現場の状況
- (2) 本プログラム開発の考え方

2 開発の過程

- (1) 開発メンバーの「思い」
- (2) 活動・ユニットプラン開発 ⇔ 学習項目一覧（シラバス）
- (3) トピック、技能・タスク（学習項目）の例

3 活動・ユニット案の内容構成（見方）

I 開発の背景

(1) 子どもの日本語教育現場の状況

これまでの研修等で聞かれた声

日本語教育について学んだり、経験していないので…

- ・何をどの順に教えていいか分からない
- ・教え方が分からないので、参考にできる指導の具体例が欲しい
- ・文字・語彙・文型・運用のための活動の組み合わせ方が分からない
- ・発達段階に合った言語活動のイメージができない

色々なシラバス（学習項目一覧）や教科書もあるけれど…

- ・項目を見てもどう教えていいか分からない
- ・現場によって指導時間が異なるのでそのまま実施できない

子どもが意欲的に学べる状況を作ることができず…

- ・文字や語彙を繰り返し練習しても、運用につながらない
- ・周囲の子どもとのやりとりへと広がりにくい

…等

(2) 本プログラム開発の考え方

生活・学習上の問題や課題を解決するためのことばの力を育むために…

- ✓ 子どもが社会や学校で何ができるようになるかを意識（目指す子ども像）
- ✓ 心身・認知面の発達に応じた学び方を重視（活動参加を通じたことばの学習）
- ✓ 意味のある文脈で課題を遂行する過程への参加（トピック・タスクの設定）
- ✓ 教科等学習に参加するための日本語力として伸長（教科と日本語の統合学習）…2026年度
- ✓ 課題遂行過程で必要な日本語の知識・技能を明確化（コア日本語）

→日本語のプログラム開発

学習項目一覧（トピック型と技能・タスク型＋コア日本語）

学習活動の具体例（活動・ユニット案）

★現場の状況、子どもの実態に合わせて

コース設計　：プログラムを選択　→　学習項目を選択　→　コースに配置

授業デザイン：活動・ユニット案を参考にして、

「教室」に合った授業計画にアレンジ

2 開発の過程 (1) 開発メンバーの「思い」

開発メンバー：

日本語教育・支援の場で、日々子どもたちに接している教員

開発会議で：

互いの実践を紹介し合い「実践で大事にしていること」を共有
「こう育ってほしい」「数年後のゴール（目指す子ども像）」といった
大きな目標を検討

日本で学ぶことを楽
しいと思えるように

最終的に「どんな子どもになってほしいか」がないと、
「（まだ）できないこと」にのみ目が行ってしまい、語彙・
文法、表記等の言語形式の知識獲得（覚えること）を目標に
設定しがち

「できる」ことで達成感が味わ
える！自己肯定感が高まる！

子ども自身が学び方の
工夫ができたら・・・

自信をもって
社会と関わりをもち、参加できる…周囲
の子どもも変われるような活動に

(2) 活動・ユニット案の開発 ⇔ 学習項目一覧 (シラバス)

よくある教科書等の例

学習項目 (文型・語彙) リスト

→ 例文 + 場面を設定した会話等

本プログラムの開発では…

プログラム全体の構造の共有

→ トピック・活動案 / 技能・タスク活動案の開発

→ 学習項目一覧の作成

(並行して コア日本語※として学習する項目の抽出)

※コア日本語 = 基本文型 (文法) + 基本語彙 (+ 文字・表記)

(3) トピック、技能・タスク（学習項目）の例

	1年目			2年目		
	1(12週)	2(13週)	3(10週)	1(12週)	2(13週)	3(10週)
目標 (テーマ)	わたし	なかま	しゃかい	これまで	現在	これから
トピックプログラム	①こんにちは ②好きな遊び 等					
技能・タスクプログラム	①名前を書く・読む ②私の国の食べ物を紹介する 等					
統合学習プログラム	①1桁の加減法等					
コア日本語 (基礎)	言語形式・言語機能					

来日直後 → 学校生活 → 社会生活 → 将来

語り → 報告/紹介 → 説明 → 意見/考え

既習内容 → 学年の内容(探究・創造)

目標達成

関連

日本語に関する知識・技能

技能・タスク型プログラムは、低学年では単独では施せず、トピック型のユニットの最終段階での表現動として実施する。

2026年度

3 活動・ユニット案の見方 (構成)

日本語プログラム(小中学校)トピック型プログラム 活動(ユニット)案 「 」

プログラム名 : トピック型日本語プログラム	
ユニット名	(=トピック)
対象児童生徒	()小低 ()小中 (○)小高 ()中学生 ◎:主たる対象 ○:対象
時間	()分 × ()回
形態	()少人数グループ ()個別
日本語の力 (ことばの ものさしで)	(日本語の4技能の力を具体的に記述) 〔聞く・話す〕ステップ: 〔読む〕ステップ: 〔書く〕ステップ: 〔聞く・話す〕ステージ: 〔読む〕ステージ: 〔書く〕ステージ:
目標 (Can-do)	
既習事項	
語彙・表現	語彙
	表現
コア日本語 文型・文法	
主な活動	学習活動
	学習方略
実施上の留意 点	
アイデア	<児童生徒の多様性への対応>
	<他のプログラム・教科との関連>

技能・タスク型の場合はここに「主な技能」「タスク」の項目が入る

概要

初見の方にも分かりやすいよう
流れを1枚に

【1回分の授業の学習活動案】

本時の目標		
分	活動展開 ①～	活動時の表現 教師と子どもに分けて ○教材 ◇支援 △留意点
	導入	
	展開	
	まとめ	
評価の対象と観点		
	まとめ	
評価の対象と観点		

1ユニットにつき
20～25分程度
×複数回の活動
↓
使える時間に合
わせて取捨選択で
きるように

学習活動案

1ユニットにつき
20~25分程度
×複数回の活動

↓
使える時間に合わせ
て取捨選択でき
るように

主にどのような子に
(学年、ことばの力)

プログラム名		トピック型日本語プログラム	
ユニット名	(=トピック)		
児童生徒	() 小低	(○) 小中	(⊙) 小高 () 中学生
	⊙:主たる対象 ○:対象		
時間	(25) 分	×	(2) 回
形態	() 少人数グループ	() 個別	
言語の力 (ことばの ものさし)	・身近な物や出来事についての簡潔な質問に、主に単語で答えることができる。(聞く・話す) (聞く・話す) ステップ: 1 [読む] ステップ: 1 [書く] ステップ: 1 [聞く・話す] ステージ: C [読む] ステージ: C [書く] ステージ: C		
目標 (Can-do)	教科名を知り、時間割を確認して、教科書を準備することができる。		
既習事項	数(1~10)、今日・昨日・明日、曜日の言い方、勉強する、何		
語彙・表現	語彙	国語、算数、社会、理科、外国語活動、音楽、図工、体育、家庭、 道徳、書写、総合、学活	
	表現	・日本語で ・何です ・～を勉強します ・～曜日の～時間目	
コア日本語 文型・文法・ 語彙	・名詞文 肯定文/疑問文「～」 ・示す助詞「の」「(名詞)の(名詞)」 ・教科名/時程の表現(○時間目)		

~できる(Can do)」で記述

太字は本活動で目標とするもの、他は紹介程度

子どもの生活・学習場面でよく使われる基本的な文型・文法事項、語彙(初期段階で利用されている教科書等を参考に選定)

	学習活動	学習方略
主な活動	1回目 教科名を知り、教科書を見て教科名を言う。教科名カードでかるたをする。	・教科書の表紙の絵図と頭文字を組み合わせて覚える。 ・時間割のマ
実施上の留意点	・教科名の語は数が多いので、理解の状況に応じ、頻度の高い主要教科を中心に扱う。それ以外は在籍学校で学んでいる等の配慮をする。	
アイデア	<児童生徒の多様性への対応> ・発話に積極的な児童であれば、質問と応答（Q&A）練習やかるたゲームで、質問 等が円滑にできる場合には、 <教科との関連> ニケーションができるようになった（ステップ3～4）段階で、出身一部として、時間割や学習内容をポスター発表する（書く技能・話す技能）活動等に関連付けることができる。	

この活動案を実施する上で、全体を通じて留意が必要な点。（各回の学習指導案の留意点欄では割愛）

子ども自身が、学習スタイルや経験、学習条件や環境に応じて、より効果的に円滑に理解・表現・記憶・活用するために、能動的に行う学習行動

文化的配慮、社会的背景、家族の状況等への配慮も含めて。

この活動案を、次の二つの場合にどう調整・アレンジするか。
○対象児童生徒が異なる場合、
○他のプログラムや教科学習と関連付け手実施する場合

○活動で利用する教材・教具

△指導時に留意が必要な点…ただし、全体に共通留意点は、概要に記載

【1回分の授業の学習活動案】

本時の目標		教科名を聞いて、どの教科か判別して教科書を選んだ。教科名カードを見て教科名を言うことができる。(聞く・話す・教科名の文字列の読み)	
分	活動展開	活動時の表現 教師と子どもに分けて	○教材 ◇支援 △留意点
● 分	導入		◆教師による支援(子どもたちが活動を円滑に進められるための具体的な手立て)
	1. 教科書を見て、教科名を知る。 教科名：国語、算数、社会、理科	T: (並べた教科書を示しながら) 勉強、勉強します。 (教科書を1冊取り上げ、中を見せながら) ブラジル ある?ない? S: ある。 何の勉強? T: (***)母語で教科名を言う) T: 日本語で 算数です。 他の教科でも同様の活動を行う	○教科書と教科内容について書かれている翻訳資料 ◇出身国での学習経験から教科名を想像させる。 △初めての内容でも不安にならないようリラックスした雰囲気

目標で挙げた言語事項（語彙・文型等）を、活動参加のために、どのように運用するかを例示。活動によって会話（教師と子ども、子ども同士）、発表モデル、作文モデルで具体的に示す。

展開 ←

まとめ ←

時間割を見て今日の授業について確認する。 ←

T: 今日の勉強です。 ←
(時間割を指して) ←
何ですか。 ←

S: 国語、算数、理科、... ←
(言えない場合は、教科名カードを指してもよい) ←

T: そうですね。体育ですね。 ←

初期の段階では、通常の教科のようなふりかえりは難しいため、学んだことのQAやリポート、板書を読む等で確認 ←

どの活動(活動NO.)の時に、何を見て評価するか ←

評価の対象と観点 ←

活動3のパフォーマンス | 教科名・～の～を聞いて、教科名、教科書かノート ←
を判別して選べたか。 ←

活動5 時間割を見て、教科名を言えたか。 ←

◎教材のヒント 教科内容について書かれた翻訳資料 ←

・愛知教育大学 外国人児童生徒支援 日本語リソースルーム作成←

『小学校ガイドブック』学習についてP13~20←

(中国語・ポルトガル語・スペイン語・タガログ語、英語・ベトナム語)←

(<https://resource-room.nihongo.aichi-edu.ac.jp/about/guidebook/>)←

・各地の教育委員会作成の「入学ガイドブック」の中にも、翻訳文書が掲載されていることが←
あります。文部科学省「かすたねっと」で調べることができます。←

(<https://casta-net.mext.go.jp/>)←

この活動案の設計において参考に
した教材や資料。

実施時には、これを活用したり、
参考にして教材を開発したりでき
る。